

年 組 名前:

4月上旬に実施したハス池の整備活動―韮崎市穴山町



つなげる
支える

(5)

「ふるさと」の風土を次世代に推進委員会（清水俊弘会長）は、地域の景観保全に取り組んでいる。若者や移住者らにも積極的に声をか

ふるさとの風土を次世代に推進委員会（韮崎市）

ハス池保全 地域一体で



藤井 駿伍
木場 菜摘

「地域一体での活動を目指している。穴山町にある池では千葉県で採取された古代ハスの一種「大賀ハス」が毎年花を咲かせていて、同町に縁のある東京都内在住者らでつくる団体や穴山公民館などが景観を守るために維持管理をしている。継続的な保全活動を展開するため、地元住民主体の新たな団体を設立する機運が高まり、2021年8月に同公民館館長を務める清水会長を中心に同委員会が発足した。春にはハス池を掘り起こし、追肥や除草をしている。根の植え替えでは、地元子どもたちに植物を自らの手で育てることの喜びを感じてもらおうと、育成会と呼びかけて一緒に作業している。

ハスの花が見頃を迎え、多くの観光客が訪れる夏場には、池の付近で大賀ハスをかたどった「あなやまハスサブ」や地元の農家が生産した野菜を販売。売り上げの一部を活動資金に充てるなど、長期的に活動できるように工夫を凝らす。さらに、ハス池から約200m北東の市道沿いには、ヒガンバナを植栽。10年ほど前まで雑草が生い茂っていたが、現在では数万株のヒガンバナが約500㎡にわたって群生し、秋になると道沿いを赤く彩る。「季節の移ろいとともにさまざまな景色を楽しめるスポットとして定着させたい」と清水会長。ただ、中心となつて活動するのは60、70代のメンバーといい、取り組みの継承が課題の一つ。清水会長は「今後は、若い世代を引きつける新たな試みも展開していきたい」と話している。

※ 第1、3土曜日に掲載します

（藤井駿伍）

(2024年4月20日付 山梨日日新聞 16面)

問1 韮崎市の池に毎年花を咲かせているハスは、どこで採取した、なんというハスか教えてください。

・どこで採取: ・名称:

問2 ハス池の保全のため、春にはどのような作業を行いますか。

.....

問3 清水会長は、ハス池をどのような場所として定着させたいと話していますか。

.....